

# プロジェクトG

## 歯科技工所の挑戦

⑭ ワイドデンタル 堀内光彦

1を自指して2014年に株式会社を改組し、今期で40期を迎える。

改組したのは企業の集合体として長時間労働、低賃金の現状を他責にするだけでなく、自社内では是正し、一般企業に見劣りしない組織を作り上げるとの狙いがあったからだ。

安定と技術の向上を目指し、生産性を高める「患者様のニーズ、歯科医院様の経営課題に貢献できる情報提供を行う」「コミュニケーションの充実を図り組織一体となって、事業運営を行う」であり、そのため

の行動指針は「信(約束を破らない)」「義(正しい事を言う)」「仁(思いやりの精神)」であった。

患者満足のために歯科技工所が歯科医院にできるのは、「技術力」「先進性」「商品のラインナップ」の提供

であり、さらに「経営サポート」としての増患、自費率アップという経営課題への貢献といえる。

その目的達成に必要なのは、多様な可能性を広げる迅速な対応となる。そのため、開業して17年目に営業部では、歯科技工士が技工に専念できるよう、外交事務作業は一切行わず、歯科技工士はスペシャリストとして営業担当者から預かった一つ一つの症例にスピーディーに対応できるよう、日々研鑽に務めている。

# 働きやすい労働環境を目指して

歯科技工業界のパラダイムシフトは加速度を増しているが、われわれが追求するのは「患者さんにいかに喜んでもらえるか」しかない。

私が長野県松本市で個人ラボを開業したのは1981年5月だった。それからは常に患者満足を考え、地域密着、地域ナンバー

この間、歯科技工業界を取り巻く環境には紆余曲折があり、社的にもいろいろとあったが、開業当初からの経営理念「私たちは先生を通して患者様に満足と喜びを提供し、お客様と共に成長発展する企業を目指す」は、一貫してきた。

その基本方針として掲げたのが、「補綴物の品質の



本社集合写真



山梨支社集合写真



長野支社集合写真

部門を設立し、営業担当者の育成に力を入れ、誰が訪問しても歯科医師からの要望を的確に歯科技工士に伝達できるようにした。結果、増患・自費率アップセミナーや院内勉強会、製品キャンペーン等の企画、さらには患者説明製品ツールの作成までを独自で行えるようになってきている。

そして、歯科技工士が歯科技工士であるための製造

と移り変わる歯科技術にいち早く対応するために最新デジタル機器をはじめとした最新設備の導入を積極的に進め、「きつい・汚い・工士の職場環境のイメージを払拭するため、週休2日8時間労働を基準とした労務管理をし、残業時間の大幅な削減を達成している。

歯科技工士の離職率を下させ、採用増につなげるには、一般企業と比較して見劣りしない組織を作り上げるしかないと考えている。